

2007年6月19日

当社独自技術を用いた新しいハードディスク用変成フッ素オイルの開発に成功

旭硝子株式会社（本社：東京、社長：門松正宏）は、ハードディスク（HD）用の潤滑油等に使用される新しい変成フッ素オイルの開発に成功しました。この製品は、当社独自の直接フッ素化技術（Perfect 法）により製造され、フッ素系オイルの持つ高い密着性、熱安定性、耐薬品・溶剤性等の特長を損なうことなく、低粘度、低吸水性、低摩擦特性を実現します。

ハードディスク駆動装置（HDD）では、磁気ヘッドがディスク上にデータの書き込み・読み取りを行います。その記録密度が年々向上するに伴いヘッドとディスクの距離がますます狭くなっており、そのため両者が接触することが増えています。接触した際にそのまま付着することなくヘッドが再浮上するためには、ディスク表面に塗布される潤滑油に低粘度、低摩擦特性が必要とされますが、従来の製造技術ではこのような特性を持つフッ素系オイルを製造することが困難でした。

今回の製品は、当社独自のフッ素化技術であるPerfect法を採用し、フッ素系オイルの特長である高い密着性、熱安定性、耐薬品・溶剤性を維持したまま粘度、摩擦係数を低く抑えた製品であり、ヘッドがディスクに付着するのを防ぎ、HDDの信頼性向上に寄与できると期待されます。

当社は、中期経営計画“JIKKO-2007”において、フッ素・スペシャリティ事業を化学品カンパニーの成長事業として位置づけ、当社の強みを活かせる製品群へ注力することとしています。今回の製品は、新しいタイプのフッ素オイルとしてHDD以外にも広く採用が見込まれ、当社の化学品事業の中で大きな成長が期待される製品です。

以上

◎本件に関するお問い合わせ先：旭硝子(株)広報・IR室長 川上 真一

(担当：若杉 TEL：03-3218-5259、E-mail：info-pr@agc.co.jp)

<付録>

Perfect 法

従来のフッ素化技術は、塩素化やフッ素化といった複数の反応を経て製品を製造するが、利用可能なフッ素系の原料が限定されており、また構成可能な分子構造も限られている。一方、当社独自の Perfect 法は有機合成で自由に製造された炭化水素系材料を原料として、その分子構造を生かしたままフッ素系の化合物を製造することができるため、従来に比べてより自由度の高い分子構造の製品を製造することが可能である。また製造時間も短縮され、溶媒も必要とせず、水素以外の副産物も発生しない非常にクリーンなプロセスである。

